

## 令和7年度新規地区採択チェックリスト

### (8-5) 農業競争力強化基盤整備事業(農地中間管理機構関連農地整備事業)

(都道府県名: 富山県)(地区名: 才川七2期)

#### 1. 必須項目

項目	評価の内容	判定
1. 事業の必要性が明確であること。(必要性)	・農業生産性の向上、農業総生産の維持・増大、農業生産の選択的拡大、農業構造の改善、営農環境の改善等の観点から、当該事業を必要とすること。	<input type="checkbox"/>
2. 技術的可能性が確実であること。	・地形、地質、水利状況等からみて、当該事業の施行が技術的に可能であること。	<input type="checkbox"/>
3. 事業の効率性が十分見込まれること。(効率性)	・当該事業の効用の発現が十分に見込まれ、すべての効用がそのすべての費用を償うこと。	<input type="checkbox"/>
4. 環境との調和に配慮していること。	・当該事業が環境との調和に配慮したものであること。	<input type="checkbox"/>
5. 事業の採択要件を満たしていること。	・事業実施要綱・要領に規定された事業内容、採択基準の要件に適合していること。	<input type="checkbox"/>

項目を満たしている場合は「○」とする。

項目欄の（ ）には、主として考えられる観点を記述している。

## 令和7年度新規地区採択チェックリスト

### (8-5) 農業競争力強化基盤整備事業(農地中間管理機構関連農地整備事業)

(都道府県名: 富山県)(地区名: 才川七2期)

#### 2. 優先配慮事項

##### 【効率性・有効性】

評価項目			評価指標	単位	評価結果	評価
大項目	中項目	小項目				
効率性	事業の経済性・効率性		①事業費の経済性・効率性の確保 ②コスト縮減についての具体的配慮	—	○ —	B
有効性	食料安全保障の確保	農業生産性の維持・向上	土地生産性及び労働生産性の維持・向上効果額(受益面積当たり)	千円/ ha・年	2,837	A
			スマート農業技術等の導入	—	○	A
			大区画化ほ場の割合	%	90.8	A
			①担い手の米の生産コストの労働費 ②事業実施前と比較した担い手の米の生産コストの労働費	円/ 60kg 割	1,270 3	A
			①高収益作物の生産額の増加率 ②高収益作物の作付面積の増加率	%	皆増	A
	農業の持続的発展	望ましい農業構造の確立	担い手への農地利用集積率	%	100.0	A
			担い手への面的集積率	%	91.3	A
		農地の確保・有効利用	①耕地利用率 ②作付率の増加ポイント	% %	100.0 0.0	A
	農村の振興	地域経済への波及効果	他産業への経済波及効果額(受益面積当たり)	千円/ ha・年	1,148	B
		農業の高付加価値化	①農業の高付加価値化や6次産業化に向けた取組 ②地域活性化に係る話し合い	—	○ ○	A
多面的機能の発揮	地域の共同活動		多面的機能支払交付金等の取組	—	○	A
環境と調和のとれた食料システムの確立	みどりの食料システム戦略に係る取組		「みどりの食料システム戦略」に係る取組の検討状況	—	○	A
	生態系・景観への配慮		①環境情報協議会等の意見を踏まえた生態系及び景観への配慮 ②地域住民の参加や地域住民との合意形成への取組 ③維持管理、費用負担、モニタリング体制等の調整状況	—	a a a	A

【事業の実施環境等】

評価項目			評価指標	単位	評価結果	評価
大項目	中項目	小項目				
事業の実施環境等	連携管理保全計画（水土里ビジョン）の策定		連携管理保全計画（水土里ビジョン）の策定状況	—	A	A
	関係計画との連携		①都道府県や市町村が策定する農業振興計画や農業振興地域整備計画等と本事業との整合性 ②高生産性優良農業地域対策に基づく広域農業農村整備促進計画との整合性 ③地域計画と本事業との整合性 ④地域における開発計画と本事業との整合性 ⑤関係計画における関連事業等への位置付け	—	a a a a —	A
	関係機関との協議		①河川管理者との協議(予備)の状況 ②その他着工前に重要な協議(予備)の状況	—	a a	A
	地元合意		①事業実施に対する関係市町村の同意状況 ②事業推進協議会から着工要望の提出 ③維持管理方法と費用負担に関する予定管理者との合意 ④事業に伴う土地利用規制の周知状況	—	a a a a	A
	営農推進体制・環境		①営農部局との連携 ②営農推進組織等(営農支援体制)の設立状況 ③農産物の流通・販売基盤の整備状況 ④需要に応じた生産の取組状況 ⑤フラッグシップ輸出産地又は輸出事業計画(GFPグローバル産地計画)の対象となる作物の営農計画への位置付け状況	—	a a a a —	A
	緊急性		①国営事業等関連する他の公共事業との関係で緊急性が高い ②老朽化等による施設機能低下や農業被害の発生状況、地域の農家の減少、荒廃農地の増加状況から、施設整備の緊急性が高い	—	— ○	B
	ストック効果の最大化		ストック効果の最大化に向けた事業の効率性・有効性等の確保	%	83.3	A

## 才川七2期地区の事業の効用に関する説明資料

### 1 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：千円)

区分	算定式	数值
総費用（現在価値化）	①=②+③	1,699,159
当該事業による費用	②	1,189,595
関連事業による費用、資産価額、再整備費	③	509,564
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	④	48年
社会的割引率		4%
総便益額（現在価値化）	⑤	2,066,284
総費用総便益比	⑥=⑤÷①	1.21

#### (2) 総費用の総括

(単位：千円)

区分	施設名 (又は工種)	資産価額 (事業着工時点) ①	当該事業による費用 ②	関連事業による費用 ③	再整備費 ④	資産価額 (評価期間終了時点) ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当該事業	区画整理	0	1,189,595	-	149,297	63,936	1,274,956
	計	0	1,189,595	-	149,297	63,936	1,274,956
その他	ダム	130,781	-	-	88,595	17,971	201,405
	頭首工	18	-	-	1,153	71	1,100
	用水路	4,385	-	-	241,479	40,915	204,949
	排水路	3,907	-	-	14,473	1,631	16,749
	計	139,091	-	-	345,700	60,588	424,203
合計		139,091	1,189,595	-	494,997	124,524	1,699,159

### (3) 年総効果額の総括

(単位：千円)

効果項目	区分 年 総 効 果 ( 便 益 ) 額	効果の要因
<b>食料の安定供給の確保に関する効果</b>		
作物生産効果	20,926	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での作物生産量が増減する効果
営農経費節減効果	82,318	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果
維持管理費節減効果	△ 1,122	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での施設の維持管理費が増減する効果
<b>農業の持続的発展に関する効果</b>		
農業労働環境改善効果	8,493	区画整理を実施したことにより、営農に係る労働が質的（労働強度の改善、精神的疲労の改善）に改善される効果
<b>多面的機能の発揮に関する効果</b>		
景観・環境保全効果	100	区画整理にあたり、周辺の景観や環境へ配慮した設計・構造を合わせもった施設として整備されることで発揮される効果
<b>その他の効果</b>		
国産農産物安定供給効果	4,194	区画整理の実施により農業生産性の向上や営農条件等の改善が図られ、国産農産物の安定供給に寄与する効果
合 計	114,909	

(4) 総便益額算出表-1

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) <sup>t</sup> ①	経過年 (t)	作物生産効果						備考	
				更新分に 係る効果	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生割合 (%) ④	年発生効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤		
1	R7	1.0000	1	19,948	978	0.0	0	19,948	19,948		
2	R8	1.0400	2	19,948	978	0.0	0	19,948	19,181		
3	R9	1.0816	3	19,948	978	0.0	0	19,948	18,443		
4	R10	1.1249	4	19,948	978	19.3	189	20,137	17,901		
5	R11	1.1699	5	19,948	978	40.6	397	20,345	17,390		
6	R12	1.2167	6	19,948	978	60.4	591	20,539	16,881		
7	R13	1.2653	7	19,948	978	80.6	788	20,736	16,388		
8	R14	1.3159	8	19,948	978	98.8	966	20,914	15,893		
9	R15	1.3686	9	19,948	978	100.0	978	20,926	15,290		
10	R16	1.4233	10	19,948	978	100.0	978	20,926	14,702		
11	R17	1.4802	11	19,948	978	100.0	978	20,926	14,137		
12	R18	1.5395	12	19,948	978	100.0	978	20,926	13,593		
13	R19	1.6010	13	19,948	978	100.0	978	20,926	13,071		
14	R20	1.6651	14	19,948	978	100.0	978	20,926	12,567		
15	R21	1.7317	15	19,948	978	100.0	978	20,926	12,084		
16	R22	1.8009	16	19,948	978	100.0	978	20,926	11,620		
17	R23	1.8730	17	19,948	978	100.0	978	20,926	11,172		
18	R24	1.9479	18	19,948	978	100.0	978	20,926	10,743		
19	R25	2.0258	19	19,948	978	100.0	978	20,926	10,330		
20	R26	2.1068	20	19,948	978	100.0	978	20,926	9,933		
21	R27	2.1911	21	19,948	978	100.0	978	20,926	9,550		
22	R28	2.2788	22	19,948	978	100.0	978	20,926	9,183		
23	R29	2.3699	23	19,948	978	100.0	978	20,926	8,830		
24	R30	2.4647	24	19,948	978	100.0	978	20,926	8,490		
25	R31	2.5633	25	19,948	978	100.0	978	20,926	8,164		
26	R32	2.6658	26	19,948	978	100.0	978	20,926	7,850		
27	R33	2.7725	27	19,948	978	100.0	978	20,926	7,548		
28	R34	2.8834	28	19,948	978	100.0	978	20,926	7,257		
29	R35	2.9987	29	19,948	978	100.0	978	20,926	6,978		
30	R36	3.1187	30	19,948	978	100.0	978	20,926	6,710		
31	R37	3.2434	31	19,948	978	100.0	978	20,926	6,452		
32	R38	3.3731	32	19,948	978	100.0	978	20,926	6,204		
33	R39	3.5081	33	19,948	978	100.0	978	20,926	5,965		
34	R40	3.6484	34	19,948	978	100.0	978	20,926	5,736		
35	R41	3.7943	35	19,948	978	100.0	978	20,926	5,515		
36	R42	3.9461	36	19,948	978	100.0	978	20,926	5,303		
37	R43	4.1039	37	19,948	978	100.0	978	20,926	5,099		
38	R44	4.2681	38	19,948	978	100.0	978	20,926	4,903		
39	R45	4.4388	39	19,948	978	100.0	978	20,926	4,714		
40	R46	4.6164	40	19,948	978	100.0	978	20,926	4,533		
41	R47	4.8010	41	19,948	978	100.0	978	20,926	4,359		
42	R48	4.9931	42	19,948	978	100.0	978	20,926	4,191		
43	R49	5.1928	43	19,948	978	100.0	978	20,926	4,030		
44	R50	5.4005	44	19,948	978	100.0	978	20,926	3,875		
45	R51	5.6165	45	19,948	978	100.0	978	20,926	3,726		
46	R52	5.8412	46	19,948	978	100.0	978	20,926	3,582		
47	R53	6.0748	47	19,948	978	100.0	978	20,926	3,445		
48	R54	6.3178	48	19,948	978	100.0	978	20,926	3,312		
合計(総便益額)									456,771		

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－2

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) <sup>t</sup>	経過年 (t)	営農経費節減効果						備考	
				更新分に 係る効果	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生割合 (%) ④	年発生効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤		
1	R7	1.0000	1	△ 5,147	87,465	0.0	0	△ 5,147	△ 5,147		
2	R8	1.0400	2	△ 5,147	87,465	0.0	0	△ 5,147	△ 4,949		
3	R9	1.0816	3	△ 5,147	87,465	0.0	0	△ 5,147	△ 4,759		
4	R10	1.1249	4	△ 5,147	87,465	19.3	16,881	11,734	10,431		
5	R11	1.1699	5	△ 5,147	87,465	40.6	35,511	30,364	25,954		
6	R12	1.2167	6	△ 5,147	87,465	60.4	52,829	47,682	39,190		
7	R13	1.2653	7	△ 5,147	87,465	80.6	70,497	65,350	51,648		
8	R14	1.3159	8	△ 5,147	87,465	98.8	86,415	81,268	61,758		
9	R15	1.3686	9	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	60,148		
10	R16	1.4233	10	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	57,836		
11	R17	1.4802	11	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	55,613		
12	R18	1.5395	12	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	53,471		
13	R19	1.6010	13	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	51,417		
14	R20	1.6651	14	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	49,437		
15	R21	1.7317	15	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	47,536		
16	R22	1.8009	16	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	45,709		
17	R23	1.8730	17	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	43,950		
18	R24	1.9479	18	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	42,260		
19	R25	2.0258	19	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	40,635		
20	R26	2.1068	20	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	39,073		
21	R27	2.1911	21	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	37,569		
22	R28	2.2788	22	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	36,123		
23	R29	2.3699	23	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	34,735		
24	R30	2.4647	24	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	33,399		
25	R31	2.5633	25	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	32,114		
26	R32	2.6658	26	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	30,879		
27	R33	2.7725	27	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	29,691		
28	R34	2.8834	28	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	28,549		
29	R35	2.9987	29	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	27,451		
30	R36	3.1187	30	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	26,395		
31	R37	3.2434	31	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	25,380		
32	R38	3.3731	32	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	24,404		
33	R39	3.5081	33	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	23,465		
34	R40	3.6484	34	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	22,563		
35	R41	3.7943	35	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	21,695		
36	R42	3.9461	36	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	20,861		
37	R43	4.1039	37	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	20,058		
38	R44	4.2681	38	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	19,287		
39	R45	4.4388	39	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	18,545		
40	R46	4.6164	40	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	17,832		
41	R47	4.8010	41	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	17,146		
42	R48	4.9931	42	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	16,486		
43	R49	5.1928	43	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	15,852		
44	R50	5.4005	44	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	15,243		
45	R51	5.6165	45	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	14,656		
46	R52	5.8412	46	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	14,093		
47	R53	6.0748	47	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	13,551		
48	R54	6.3178	48	△ 5,147	87,465	100.0	87,465	82,318	13,030		
合計（総便益額）									1,412,263		

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－3

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) <sup>t</sup>	経過年 (t)	維持管理費節減効果						備考	
				更新分に 係る効果	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生割合 (%) ④	年効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤		
1	R7	1.0000	1	△ 1,238	116	0.0	0	△ 1,238	△ 1,238		
2	R8	1.0400	2	△ 1,238	116	0.0	0	△ 1,238	△ 1,190		
3	R9	1.0816	3	△ 1,238	116	0.0	0	△ 1,238	△ 1,145		
4	R10	1.1249	4	△ 1,238	116	19.3	22	△ 1,216	△ 1,081		
5	R11	1.1699	5	△ 1,238	116	40.6	47	△ 1,191	△ 1,018		
6	R12	1.2167	6	△ 1,238	116	60.4	70	△ 1,168	△ 960		
7	R13	1.2653	7	△ 1,238	116	80.6	93	△ 1,145	△ 905		
8	R14	1.3159	8	△ 1,238	116	98.8	115	△ 1,123	△ 853		
9	R15	1.3686	9	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 820		
10	R16	1.4233	10	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 788		
11	R17	1.4802	11	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 758		
12	R18	1.5395	12	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 729		
13	R19	1.6010	13	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 701		
14	R20	1.6651	14	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 674		
15	R21	1.7317	15	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 648		
16	R22	1.8009	16	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 623		
17	R23	1.8730	17	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 599		
18	R24	1.9479	18	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 576		
19	R25	2.0258	19	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 554		
20	R26	2.1068	20	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 533		
21	R27	2.1911	21	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 512		
22	R28	2.2788	22	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 492		
23	R29	2.3699	23	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 473		
24	R30	2.4647	24	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 455		
25	R31	2.5633	25	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 438		
26	R32	2.6658	26	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 421		
27	R33	2.7725	27	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 405		
28	R34	2.8834	28	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 389		
29	R35	2.9987	29	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 374		
30	R36	3.1187	30	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 360		
31	R37	3.2434	31	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 346		
32	R38	3.3731	32	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 333		
33	R39	3.5081	33	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 320		
34	R40	3.6484	34	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 308		
35	R41	3.7943	35	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 296		
36	R42	3.9461	36	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 284		
37	R43	4.1039	37	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 273		
38	R44	4.2681	38	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 263		
39	R45	4.4388	39	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 253		
40	R46	4.6164	40	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 243		
41	R47	4.8010	41	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 234		
42	R48	4.9931	42	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 225		
43	R49	5.1928	43	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 216		
44	R50	5.4005	44	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 208		
45	R51	5.6165	45	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 200		
46	R52	5.8412	46	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 192		
47	R53	6.0748	47	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 185		
48	R54	6.3178	48	△ 1,238	116	100.0	116	△ 1,122	△ 178		
合計（総便益額）									△ 25,269		

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－4

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) <sup>t</sup> ①	経過年 (t)	農業労働環境改善効果						備考	
				更新分に 係る効果	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生割合 (%) ④	年効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤		
1	R7	1.0000	1	-	8,493	0.0	0	0	0		
2	R8	1.0400	2	-	8,493	0.0	0	0	0		
3	R9	1.0816	3	-	8,493	0.0	0	0	0		
4	R10	1.1249	4	-	8,493	0.0	0	0	0		
5	R11	1.1699	5	-	8,493	0.0	0	0	0		
6	R12	1.2167	6	-	8,493	0.0	0	0	0		
7	R13	1.2653	7	-	8,493	0.0	0	0	0		
8	R14	1.3159	8	-	8,493	0.0	0	0	0		
9	R15	1.3686	9	-	8,493	100.0	8,493	8,493	6,206		
10	R16	1.4233	10	-	8,493	100.0	8,493	8,493	5,967		
11	R17	1.4802	11	-	8,493	100.0	8,493	8,493	5,738		
12	R18	1.5395	12	-	8,493	100.0	8,493	8,493	5,517		
13	R19	1.6010	13	-	8,493	100.0	8,493	8,493	5,305		
14	R20	1.6651	14	-	8,493	100.0	8,493	8,493	5,101		
15	R21	1.7317	15	-	8,493	100.0	8,493	8,493	4,904		
16	R22	1.8009	16	-	8,493	100.0	8,493	8,493	4,716		
17	R23	1.8730	17	-	8,493	100.0	8,493	8,493	4,534		
18	R24	1.9479	18	-	8,493	100.0	8,493	8,493	4,360		
19	R25	2.0258	19	-	8,493	100.0	8,493	8,493	4,192		
20	R26	2.1068	20	-	8,493	100.0	8,493	8,493	4,031		
21	R27	2.1911	21	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,876		
22	R28	2.2788	22	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,727		
23	R29	2.3699	23	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,584		
24	R30	2.4647	24	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,446		
25	R31	2.5633	25	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,313		
26	R32	2.6658	26	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,186		
27	R33	2.7725	27	-	8,493	100.0	8,493	8,493	3,063		
28	R34	2.8834	28	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,945		
29	R35	2.9987	29	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,832		
30	R36	3.1187	30	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,723		
31	R37	3.2434	31	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,619		
32	R38	3.3731	32	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,518		
33	R39	3.5081	33	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,421		
34	R40	3.6484	34	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,328		
35	R41	3.7943	35	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,238		
36	R42	3.9461	36	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,152		
37	R43	4.1039	37	-	8,493	100.0	8,493	8,493	2,069		
38	R44	4.2681	38	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,990		
39	R45	4.4388	39	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,913		
40	R46	4.6164	40	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,840		
41	R47	4.8010	41	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,769		
42	R48	4.9931	42	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,701		
43	R49	5.1928	43	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,636		
44	R50	5.4005	44	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,573		
45	R51	5.6165	45	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,512		
46	R52	5.8412	46	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,454		
47	R53	6.0748	47	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,398		
48	R54	6.3178	48	-	8,493	100.0	8,493	8,493	1,344		
合計(総便益額)									127,741		

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－5

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) <sup>t</sup> ①	経過年 (t)	景観・環境保全効果						備考	
				更新分に 係る効果	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生割合 (%) ④	年効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤		
1	R7	1.0000	1	—	100	0.0	0	0	0	0	
2	R8	1.0400	2	—	100	0.0	0	0	0	0	
3	R9	1.0816	3	—	100	0.0	0	0	0	0	
4	R10	1.1249	4	—	100	0.0	0	0	0	0	
5	R11	1.1699	5	—	100	0.0	0	0	0	0	
6	R12	1.2167	6	—	100	0.0	0	0	0	0	
7	R13	1.2653	7	—	100	0.0	0	0	0	0	
8	R14	1.3159	8	—	100	0.0	0	0	0	0	
9	R15	1.3686	9	—	100	100.0	100	100	100	73	
10	R16	1.4233	10	—	100	100.0	100	100	100	70	
11	R17	1.4802	11	—	100	100.0	100	100	100	68	
12	R18	1.5395	12	—	100	100.0	100	100	100	65	
13	R19	1.6010	13	—	100	100.0	100	100	100	62	
14	R20	1.6651	14	—	100	100.0	100	100	100	60	
15	R21	1.7317	15	—	100	100.0	100	100	100	58	
16	R22	1.8009	16	—	100	100.0	100	100	100	56	
17	R23	1.8730	17	—	100	100.0	100	100	100	53	
18	R24	1.9479	18	—	100	100.0	100	100	100	51	
19	R25	2.0258	19	—	100	100.0	100	100	100	49	
20	R26	2.1068	20	—	100	100.0	100	100	100	47	
21	R27	2.1911	21	—	100	100.0	100	100	100	46	
22	R28	2.2788	22	—	100	100.0	100	100	100	44	
23	R29	2.3699	23	—	100	100.0	100	100	100	42	
24	R30	2.4647	24	—	100	100.0	100	100	100	41	
25	R31	2.5633	25	—	100	100.0	100	100	100	39	
26	R32	2.6658	26	—	100	100.0	100	100	100	38	
27	R33	2.7725	27	—	100	100.0	100	100	100	36	
28	R34	2.8834	28	—	100	100.0	100	100	100	35	
29	R35	2.9987	29	—	100	100.0	100	100	100	33	
30	R36	3.1187	30	—	100	100.0	100	100	100	32	
31	R37	3.2434	31	—	100	100.0	100	100	100	31	
32	R38	3.3731	32	—	100	100.0	100	100	100	30	
33	R39	3.5081	33	—	100	100.0	100	100	100	29	
34	R40	3.6484	34	—	100	100.0	100	100	100	27	
35	R41	3.7943	35	—	100	100.0	100	100	100	26	
36	R42	3.9461	36	—	100	100.0	100	100	100	25	
37	R43	4.1039	37	—	100	100.0	100	100	100	24	
38	R44	4.2681	38	—	100	100.0	100	100	100	23	
39	R45	4.4388	39	—	100	100.0	100	100	100	23	
40	R46	4.6164	40	—	100	100.0	100	100	100	22	
41	R47	4.8010	41	—	100	100.0	100	100	100	21	
42	R48	4.9931	42	—	100	100.0	100	100	100	20	
43	R49	5.1928	43	—	100	100.0	100	100	100	19	
44	R50	5.4005	44	—	100	100.0	100	100	100	19	
45	R51	5.6165	45	—	100	100.0	100	100	100	18	
46	R52	5.8412	46	—	100	100.0	100	100	100	17	
47	R53	6.0748	47	—	100	100.0	100	100	100	16	
48	R54	6.3178	48	—	100	100.0	100	100	100	16	
合計(総便益額)									1,504		

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－6

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) <sup>t</sup> ①	経過年 (t)	国産農産物安定供給効果						備考	
				更新分に 係る効果	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生割合 (%) ④	年効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤		
1	R7	1.0000	1	4,373	△ 179	0.0	0	0	4,373	4,373	
2	R8	1.0400	2	4,373	△ 179	0.0	0	0	4,373	4,205	
3	R9	1.0816	3	4,373	△ 179	0.0	0	0	4,373	4,043	
4	R10	1.1249	4	4,373	△ 179	19.3	△ 35	4,338	3,856		
5	R11	1.1699	5	4,373	△ 179	40.6	△ 73	4,300	3,676		
6	R12	1.2167	6	4,373	△ 179	60.4	△ 108	4,265	3,505		
7	R13	1.2653	7	4,373	△ 179	80.6	△ 144	4,229	3,342		
8	R14	1.3159	8	4,373	△ 179	98.8	△ 177	4,196	3,189		
9	R15	1.3686	9	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	3,064		
10	R16	1.4233	10	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,947		
11	R17	1.4802	11	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,833		
12	R18	1.5395	12	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,724		
13	R19	1.6010	13	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,620		
14	R20	1.6651	14	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,519		
15	R21	1.7317	15	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,422		
16	R22	1.8009	16	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,329		
17	R23	1.8730	17	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,239		
18	R24	1.9479	18	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,153		
19	R25	2.0258	19	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	2,070		
20	R26	2.1068	20	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,991		
21	R27	2.1911	21	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,914		
22	R28	2.2788	22	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,840		
23	R29	2.3699	23	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,770		
24	R30	2.4647	24	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,702		
25	R31	2.5633	25	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,636		
26	R32	2.6658	26	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,573		
27	R33	2.7725	27	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,513		
28	R34	2.8834	28	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,455		
29	R35	2.9987	29	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,399		
30	R36	3.1187	30	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,345		
31	R37	3.2434	31	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,293		
32	R38	3.3731	32	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,243		
33	R39	3.5081	33	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,196		
34	R40	3.6484	34	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,150		
35	R41	3.7943	35	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,105		
36	R42	3.9461	36	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,063		
37	R43	4.1039	37	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	1,022		
38	R44	4.2681	38	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	983		
39	R45	4.4388	39	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	945		
40	R46	4.6164	40	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	909		
41	R47	4.8010	41	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	874		
42	R48	4.9931	42	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	840		
43	R49	5.1928	43	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	808		
44	R50	5.4005	44	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	777		
45	R51	5.6165	45	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	747		
46	R52	5.8412	46	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	718		
47	R53	6.0748	47	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	690		
48	R54	6.3178	48	4,373	△ 179	100.0	△ 179	4,194	664		
合計(総便益額)									93,274		

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

## 2 年効果額の算定方法

## (1) 作物生産効果

### ○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）の作物生産量の比較により年効果額を算定した。

○対象作物

## 水稻、にんじん

## ○年効果額算定式

年効果額 = 単収增加年効果額<sup>※1</sup> + 作付増減年効果額<sup>※2</sup>

※1 単収增加年効果額 = 作付面積 × (事業ありせば単収 - 事業なかりせば単収) × 単価 × 単収増加の純益率

※2 作付増減年効果額 = (事業ありせば作付面積 - 事業なかりせば作付面積) × 単収 × 単価 × 作付増減の純益率

## ○年効果額の算定

作物名	新設 ・ 更新	作付面積			効果要因	単 収			生産 増減量	生産物 単価	増粗 収益額	純益率	年効果額
		現況	計画	効果発生面積 ①		事業 なかり せば 單 収	事業 ありせば 單 収	黒算 対象 單 収 ②					
水稻	新設	ha 35.8	ha 33.3	ha 33.3	单収増 (水管理改良)	kg/10a 525	kg/10a 536	kg/10a 11	t 3.7	千円/t -	千円 -	% -	千円 -
				△ 2.5	小計	-	-	-	3.7	206	762	89	678
				△ 2.5	作付減	-	-	525	△ 13.1	-	-	-	-
				△ 2.5	小計	-	-	-	△ 13.1	206	△ 2,699	-	-
	更新	35.8	35.8	单収増 (水管理改良)	221	525	304	108.8	-	-	-	-	-
				单収増 (水管理改良)	-	-	-	108.8	206	22,413	89	19,948	
				水稻計	-	-	-	99.4	-	20,476	-	20,626	
にんじん	新設	-	1.9	1.9	作付増	-	-	1,625	30.9	-	-	-	-
				1.9	小計	-	-	-	30.9	81	2,503	12	300
				1.9	にんじん計	-	-	-	30.9	-	2,503	-	300
水田計	新設	35.8	35.2								566		978
	更新	35.8	35.8								22,413		19,948
新設											566		978
更新											22,413		19,948
合計											22,979		20,926

- ・作付面積 : 各作物の作付面積は以下のとおり  
「現況作付面積」
    - ・関係市の作付実績に基づき決定した。  
「計画作付面積」
    - ・新設整備では、県、関係市の農業振興計画や関係者の意向を踏まえ決定した。
      - ・更新整備では、現況施設のもとで作物生産量が維持される面積であり、現況=計画とした。
  - ・単 収 : 増加粗収益額の算定に用いる各作物の単収については、以下のとおり  
「事業なかりせば単収」
    - ・新設整備では、現況単収であり、農林水産統計等による最近5か年の平均単収により算定した。
      - ・更新整備では、用水機能の喪失時の単収であり、現況単収に効果要因別の失われる增收率分を減じて算定した。  
「事業ありせば単収」
    - ・新設整備では、計画単収であり、現況単収に効果要因別の增收率を考慮して算定した。
      - ・更新整備では、現況単収であり、農林水産統計等による最近5か年の平均単収により算定した。  
「効果算定対象単収」
    - ・事業ありせば単収と事業なかりせば単収の差である。  
(作付増においては、地域の計画単収、作付減においては地域の現況単収である。)
  - ・生産物単価 : 農業物価統計等による最近5か年の販売価格に消費者物価指数を反映した価格を用いた。
  - ・純 益 率 : 「土地改良事業の費用対効果分析必要な諸係数について」による標準値等を用いた

## (2) 営農経費節減効果

### ○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と事業を実施しなかった場合（事業なかりせば）の労働費、機械経費、その他の生産資材費について比較し、それらの営農経費の増減から年効果額を算定した。

### ○対象作物

水稻

### ○効果算定式

$$\text{年効果額} = (\text{事業なかりせば単位面積当たり営農経費} - \text{事業ありせば単位面積当たり営農経費}) \times \text{効果発生面積}$$

### ○年効果額の算定

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 経費節減額 $\textcircled{5} =$ $(\textcircled{1}-\textcircled{2}) +$ $(\textcircled{3}-\textcircled{4})$	効果生面積 $\textcircled{6}$	年効果額 $\textcircled{7} = \textcircled{5} \times \textcircled{6}$			
	新設		更新							
	現況 (事業なかりせば) $\textcircled{1}$	計画 (事業ありせば) $\textcircled{2}$	事業なかりせば 営農経費 $\textcircled{3}$	現況 (事業ありせば) $\textcircled{4}$						
水稻(区画整理) (100a, 営農組合)	円 2,307,307	円 1,255,268	円 -	円 -	円 1,052,039	ha 6.4	千円 6,733			
水稻(区画整理) (50a, 営農組合)	2,307,307	1,277,764	-	-	1,029,543	0.4	412			
水稻(区画整理) (100a, 認定農業者)	2,684,461	1,414,149	-	-	1,270,312	17.8	22,612			
水稻(区画整理) (50a, 認定農業者)	2,684,461	1,433,226	-	-	1,251,235	2.3	2,878			
水稻(区画整理) (100a, 個別営農→営農組合)	9,886,267	1,255,268	-	-	8,630,999	3.6	31,072			
水稻(区画整理) (50a, 個別営農→営農組合)	9,886,267	1,277,764	-	-	8,608,503	0.3	2,583			
水稻(区画整理) (100a, 個別営農→認定農業者)	9,886,267	1,414,149	-	-	8,472,118	2.2	18,639			
水稻(区画整理) (50a, 個別営農→認定農業者)	9,886,267	1,433,226	-	-	8,453,041	0.3	2,536			
水稻(用水改良) (営農組合)	-	-	2,256,269	2,307,307	△51,038	7.0	△357			
水稻(用水改良) (認定農業者)	-	-	2,639,713	2,684,461	△44,748	20.8	△931			
水稻(用水改良) (個別営農)	-	-	9,403,948	9,886,267	△482,319	8.0	△3,859			
新設							87,465			
更新							△5,147			
合計							82,318			

- 各作物のha当たり営農経費は以下のとおり

- 現況営農経費
- 計画営農経費

: 地域の営農経費であり、富山県の農業経営指標等に基づき算定した。  
: 想定される事業により増減した地域の営農経費であり、富山県の農業経営指標等を基に、地域の農業関係機関、普及センターの指導方針を反映し算定した。

- 事業なかりせば営農経費

: 地域の水利施設の機能が失われた場合に想定される水管理作業に係る経費を考慮し算定した。

### (3) 維持管理費節減効果

#### ○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）を比較し、維持管理費の増減をもって年効果額を算定した。

#### ○対象施設

ダム、頭首工、用水路、排水路

#### ○効果算定式

年効果額＝事業なかりせば維持管理費－事業ありせば維持管理費

#### ○年効果額の算定

区分	新設	現況維持管理費①	事業ありせば維持管理費②	年効果額 ③=①-②
	更新	事業なかりせば維持管理費①	現況維持管理費②	
新設整備		千円 1,744	千円 1,628	千円 116
更新整備		506	1,744	△ 1,238
合 計				△ 1,122

##### ・事業なかりせば維持管理費

: 現況施設の維持管理費を基に、施設の機能を失った場合に想定される安全管理等に最低限必要な維持管理を算定した。

##### ・事業ありせば維持管理費

: 現況施設の維持管理費を基に、本事業の実施により見込まれる維持管理費の増減を考慮し算定した。

##### ・現況維持管理費

: 現況施設の維持管理費に基づき算定した。

## (4) 農業労働環境改善効果

### ○効果の考え方

事業の実施により、営農に係る労働が質的に改善（労働強度の改善、精神的疲労の軽減等）される効果であり、市場で扱われていない価値であるため、受益者にWTP (Willingness To Pay : 支払意思額) を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM (Contingent Valuation Method : 仮想市場法) により効果を算定した。

### ○対象作業

機械運転作業、水管理等

### ○効果算定式

$$\text{年効果額} = \text{労働改善に対する支払意思額} \times \text{受益面積}$$

### ○年効果額の算定

作業負荷 軽減対象 作業名	作業負荷軽減対象作業方法			労働改善に 関するWTP (円/10a/年)		受益面積 (ha)		年効果額 (千円)	
				更新分	新設及び 機能向上	更新分	新設及び 機能向上	更新分	新設及び 機能向上
	事業な かりせば	現況	計画	①	②	③	④	⑤= ①×③	⑥= ②×④
機械運転作業	-	通常畦畔	幅広畦畔の設置により、機械で草刈り作業可能	-	20,494	-	11.4	-	2,336
水管理等	-	開水路	管水路化することによる精神的疲労の解消	-	31,739	-	19.4	-	6,157
合計									8,493

・労働改善に関するWTP

: 受益者に対するアンケート調査結果から得られた、労働改善に対する支払意思額

・受益面積

: 事業地区内における当該効果にかかる受益面積

## (5) 景観・環境保全効果

### ○効果の考え方

景観や自然環境が保全、創設される効果であり、市場で扱われていない価値であるため、地域住民等にWTP (Willingness To Pay : 支払意思額) を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM (Contingent Valuation Method : 仮想市場法) により効果を算定した。

### ○対象施設

環境保全施設

### ○年効果額算定式

$$\text{年効果額} = \text{一戸当たりの支払意思額} \times \text{受益範囲世帯数} \times \{ C_1 / (C_1 + C_2) \}$$

ただし、

C 1 : 景観・環境保全施設の資本還元額のうち当該土地改良事業分

C 2 : 景観・環境保全施設の資本還元額のうちその他事業分

### ○年効果額の算定

区分	土地改良施設名	CVMによる効果額 ①	景観・環境保全施設の資本還元額 ②=③+④	当該土地改良事業の資本還元額 ③	その他の事業の資本還元額 ④	当該土地改良事業における効果額 ⑤=①×(③/②)
新設整備	M2号排水路	千円 100	千円 104	千円 104	千円 -	千円 100

## (6) その他の効果（国産農産物安定供給効果）

### ○効果の考え方

国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果であるため、一般国民に対してWTP (Willingness To Pay : 支払意思額) を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM (Contingent Valuation Method : 仮想市場法) により年効果額を算定した。

### ○対象作物

水稻、にんじん

### ○効果算定式

$$\begin{aligned} \text{年効果額} &= \text{年增加粗収益額} \times \text{単位食料生産額当たり効果額 (原単位)} \\ &\quad + \text{年增加供給熱量} \times \text{単位供給熱量当たり効果額 (原単位)} \end{aligned}$$

### ○年効果額の算定

区分	増加粗収益額 ①	増加供給熱量 (千kcal) ②	単位食料生産 額当たり効果 額 (円/千円) ③	単位供給熱量 当たり効果額 (円/千kcal) ④	当該土地改良 事業における 年効果額 $\text{⑤} = \text{①} \times \text{③} + \text{②} \times \text{④}$
	千円	千kcal	円/千円	円/千kcal	千円
新設整備	566	△ 20,851	49	9.9	△ 179
更新整備	22,413	330,752	49	9.9	4,373
合計	22,979	309,901			4,194

#### ・増加粗収益額

: 作物生産効果の算定過程で整理した結果を用いて、事業ありせばと事業なかりせばにおける増加粗収益額及び増加供給熱量を整理した。

#### ・単位食料生産額 当たり効果額

: 一般国民に対し国産農産物の安定供給についてWTPを尋ねるCVMにより、年効果額の算定に用いる単位食料生産額当たり効果額 (原単位) は49円/千円、単位供給熱量当たり効果額 (原単位) は9.9円/千kcalとした

### 3 評価に使用した資料

#### 【共通】

- ・農林水産省農村振興局整備部（監修）[改訂版]「新たな土地改良の効果算定マニュアル」大成出版社（平成27年9月5日第2版第1刷発行）
- ・「土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの制定について」（平成19年3月28日付け18農振第1597号農林水産省農村振興局企画部長通知（最終改正：令和7年4月2日））
- ・「国産農産物安定供給効果」について（平成27年3月27日付け26農振第2072号農林水産省農村振興局整備部長通知（令和5年4月3日一部改正））
- ・土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和4年4月11日付け農林水産省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡）
- ・土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和5年9月13日付け農林水産省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡）
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日付け18農振第1598号農林水産省農村振興局企画部長通知（令和7年4月1日一部改正））
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数等について（令和7年4月1日付け農林水産省農村振興局整備部土地改良企画課課長補佐（事業効果班）事務連絡）

#### 【費用】

- ・当該事業費に係る一般に公表されていない諸元については、富山県農林水産部農村整備課調べ

#### 【便益】

- ・北陸農政局統計部（令和5～6年）「北陸農林水産統計年報」
- ・上記以外の効果算定に必要な各種諸元については、富山県農林水産部農村整備課調べ